

第四回

# 現代社会の基礎を構築した 鹿児島県出身の偉人

現在は過去の蓄積を基礎に存在する。その蓄積の代表が郷士の偉人である。鹿児島県には西郷隆盛を筆頭に日本近代を創生した多数の偉人が存在するが、それほど有名ではないものの、近代社会の発展に貢献した多数の人々も鹿児島県が輩出している。

現代の情報社会は通信技術なしでは成立しない。その基礎を構築したのが寺島宗則（一八三二～九三）である。明治政府の外務卿として条約改正に尽力したが、文久遣欧使節参加の経験から通信の重要さを実感し、当時の日本の玄関横浜と東京の区間に電信敷設を建議、明治二年の日本最初の電信実現に貢献した。郵便事業を創設した前島密（まえじまひのぶ）ほど顕彰されないが、日本電信電話の父として功績が記録されている。

日露戦争は皇國の興廢を左右する決戦であった。「陸の大山、海の東郷」といわれる鹿児島出身の二人の大将が活躍したが、それを支援したのが諜報活動を実行する参謀本部であつた。とりわけドイツ皇帝が「一人で満州の陸軍二〇万人に匹敵する戦果を達成」と称賛した福岡出身の明石元二郎が有名であるが、その明石の恩師が薩摩藩士三男の川上操六（一八四八～九九）である。

明治になつて陸軍に出仕して一八八五年に参謀本部次長になるが、藩閥に拘泥せずに人材を育成し、その一人が明石であつた。陸軍大将参謀総長になると、藩閥に拘泥せずに人材を育成し、その一人が明石であるが、五十一歳で逝去した。しかし「陸軍参謀本部の父」と賞賛される川上の構築した組織が明治二年の日本最初の電信実現に貢献した。郵便事業を創設した前島密ほど顕彰されないが、日本電信電話の父として功績が記録されている。

鹿児島県立図書館の入口付近に「薩摩辞書之碑」が建立されている。三名の藩士が藩庁の資金で明治一年に印刷した英和辞書で、その三名の一名が前田正名（一八五〇～一九二二）である。一八七六年のパリ万国博覧会の日本館事務館長、農商務省大書記官、山梨県知事、貴族院勅選議員などを歴任しながら全国各地の殖産興業に尽力した人物である。

日本に国立公園の制度が成立し、一九三四年に最初の八箇所が指定されるが、その一個所が阿寒国立公園である。九万ヘクタールの面積のうち三八〇〇ヘクタールは前田が取得した土地で、牧場にする予定であったが、あまりの絶景のため震が発生し「地震の神様」と賞賛されるまでになり、日本の地震研究を牽引してきた。

日本は世界有数の地震大国であるが、この自然現象の研究は一八八六年に帝国大学に地震学講座が設置されてから出発した。その講座に九四年に進学してきたのが薩摩藩士三男の今村明恒（一八七〇～一九四八）である。助教授であった一九〇五年、東京一帯の歴史調査から、今後も東京に地震は発生し、火災により多数の死者が発生するという文章を発表したため、教授の大森房吉から叱責される事件となつた。ところが一九二三年に実際に巨大地震が発生し「地震の神様」と賞賛されるまでになり、日本の地震研究を牽引してきた。

様々な分野の先駆者を輩出してきた歴史を背景に、明治維新一五〇年を契機に次代を開拓する人々が鹿児島県から登場することを期待する。

Profile



東京大学名誉教授

月尾 嘉男 氏

1942年愛知県生まれ  
1965年東京大学卒業。名古屋大学教授、東京大学教授、総務省総務審議官などを経て、現在は東京大学名誉教授